

[記入例] 添付様式5-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

添付様式5-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	構成員	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織(●●検討チーム)	・都市整備課、企画課、まちづくり推進課、市民情報課、公園緑地課、観光商工課、保健福祉課 ・〇〇大学〇〇教授(都市経営)	●期間中3回の会議を実施 ・第1回:〇月〇日・第2回:〇月〇日 ・第3回:〇月〇日 ●その他、メール等にて意見交換を実施	都市整備課(まちづくり交付金主管課)

↑  
①

↑  
②

↑  
③

↑  
④

- ① 名称等……………検討体制の名称等を記入する。
- ② 構成員……………検討体制のメンバー構成を具体的に記入する。庁内職員及び住民の場合は所属・役職までを、また、学識経験者や専門家は所属・役職と氏名までを記入する。
- ③ 実施時期……………検討の時期、実施頻度、回数等を記入する。
- ④ 担当部署……………効果発現の要因を検討するにあたり、主体となった担当部署名を記入する。

## 添付様式5-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

- ◆数値目標を達成した指標について、効果発現要因の整理を行う。ここでいう“数値目標を達成した指標”とは次の指標を指す。

- ・添付様式3-①において数値目標を達成したと判断される指標（達成度が〇、あるいは、達成見込み「あり」とした指標）。
- ・添付様式3-②に「その他の数値指標」として記載した指標のうち、効果があったと認められるもの（「その他の数値指標」のうち、「代替指標」とするものは必須）。

- ◆上記に該当する指標について、実施した事業が指標の改善に及ぼした影響を評価する（効果発現要因を整理する手順や整理手法については、P.22 参考1 及び P.23 参考2 を参照）。
- ◆実施した事業の指標改善の貢献度を評価する際には、事前評価時に作成した「数値目標と事業の関係表示シート」に再度目を通し、事前評価時に想定した関連性を確認することが望ましい。
- ◆よかった結果については、その効果を持続・活用させる方策があれば記入する（任意）。のちに添付様式6において、モニタリングの所見を記入するための参考情報となる。

### ■＜参考＞貢献度の評価の考え方例

- ・実際に事業を行った結果、指標の直接的もしくは間接的改善に貢献したと考えられる事業には、「A」もしくは「B」をつける。
- ・また、①事業によって指標の改善を期待したが、結果的に直接的・間接的改善につながらなかった、または、②貢献に至らなかったばかりか、指標の改善にマイナスの影響を与えたと考えられる事業には、「C」をつける。
- ・なお、指標の改善に無関係な事業であることが明確な場合には「-」という記入となる。

### 【補足・留意事項】

- ・効果発現要因の分析として、どの事業が指標の改善に効果をあげたのかを確認し、まちづくりに有効な事業の組み合わせを考察するものである。
- ・また、効果をあげた事業を洗い出すだけでなく、事業が順調に効果を発揮して改善をもたらしたのか、それとも、期待していた事業はさほどの効果がなかったが、他の事業が予期しない効果を発揮したために結果的に指標が改善したなど、真の要因を見極めることも重要であり、こうした考察も加えて総合所見として整理することも有益である
- ・そのような分析を通じて得た知見の積み重ねが、今後のまちづくりを行う上で貴重な財産となる。

[記入例] 添付様式5-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

添付様式5-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標2	指標3	その他の数値指標1	
指標名		b. 居住人口	■館来館者数	○駅の乗降者数	
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	都市計画道路○線改良事業	B	整備計画段階からワークショップ等住民参加で整備計画を策定したため、住民の地区に対する愛着が生まれた。	「■館改修工事」に加え、「○駅橋上駅舎改築事業」等の間接効果により、■館来館者数が増加した。ただし、「歴史、風土、水ネットワーク事業」については、進捗が遅れ、当初期待していた効果がみられなかった。	「○駅橋上駅舎改築事業」と「□□土地区画整理事業」との相乗効果により、予想を上回る乗降客数となった。
	都市計画道路△線改良事業	B			
	市道□線改良事業	A			
	市道××線○交差点改良事業	B			
	●●地下道自由通路整備事業	B			
□□土地区画整理事業	B				
提案事業	歴史、風土、水ネットワーク事業	B			
	○駅橋上駅舎改築事業	B			
	□□地区景観形成ワークショップ	A			
関連事業	□□土地区画整理事業	A			
	■館改修工事	—			
	地区計画	A			

  

②	↑	③	↑	⑤	↑	④	↑
		今後の活用		他地区においてもワークショップを実施し、まちづくりに対する住民のさらなる参加を促す。		歴史、風土、水ネットワーク事業等の他事業との相乗効果を引き出すための施策を実施する。	

① 指標名……………添付様式3-①において数値目標を達成したと判断される指標名（達成度が○、あるいは、達成見込み「あり」とした指標）、また、添付様式3-②に「その他の数値指標」として記載した指標のうち、効果があったと認められる指標名を記入する。

② 事業名・箇所名……………都市再生整備計画に記載したすべての事業名および事業を実施した箇所名を具体的に記入する。

③ 指標改善への貢献度……………事前評価時に行った評価と同様の要領で、以下の基準により、指標の改善に対して事業がどの程度貢献したかを評価する。

数値目標の効果発現要因の整理における評価	
評価の基準	指標改善への貢献度
事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した	A
事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した	B
指標の改善に貢献しなかった	C
事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので評価できない	—

④ 総合所見……………指標が改善した主な要因を、実施した事業や実施過程との関連性を踏まえ、事業名等を挙げながら具体的に記入する。

⑤ 今後の活用……………よかった結果を、今後も持続・活用させる方策があれば記入する（任意）。

## 添付様式 5-③ 数値目標を達成できていない指標にかかる効果発現要因の整理

- ◆数値目標を達成できていない指標について、効果発現要因の整理を行う。ここで言う“数値目標を達成できていない指標”とは次の指標を指す。

・添付様式 3-①において数値目標を達成できていないと判断される指標（達成度が△もしくは×でかつ、達成見込み「なし」とした指標）。

- ◆上記に該当する指標について、目標の達成に至らない原因となった事業の影響を評価し、また、改善できなかった主な要因を、実施した（あるいは計画どおりに実施できなかった）事業や実施過程との関連性を踏まえ整理する。（効果発現要因を整理する手順や整理手法について、P.22 参考 1 及び P.23 参考 2 を参照）
- ◆実施した事業の指標改善の影響度を評価する際には、事前評価時に作成した「数値目標と事業の関係表示シート」に再度目を通し、事前評価時に想定した関連性を確認することが望ましい。
- ◆達成できていない数値目標については、引き続きその達成を目指し改善を図ることが必要であることから、今後行うべき改善の方針を必ず記入すること（必須）。また、この改善の方針は、のちに添付様式 6 において、モニタリングの所見を記入する際に、改善の視点も含んだ総合的な検討を行うための参考情報となる。

### ■＜参考＞影響度の評価の考え方例

- ・実際に事業を行った結果、事業が指標の目標を達成できていない直接的な原因となったと思われる場合には「-a」をつける。
- ・また、事業が指標の目標を達成できていない間接的な原因となったと考えられる場合には「-b」をつける。
- ・一方、数値目標が達成できていない中でも、ある程度の効果をあげたと思われる事業については、「c」をつける。
- ・なお、指標の改善に無関係な事業であることが明確な場合には「-」という記入となる。

### 【補足・留意事項】

- ・効果発現要因の分析として、どの事業が思うように効果を発揮できなかったために、数値目標を達成できていないのか確認し、適切な改善措置の実施を図るために考察するものである。
- ・数値目標を達成できていない主原因となった事業を洗い出すだけでなく、主要な事業が効果を発揮できていないことが大きな原因なのか、それとも、ある事業は一定の効果を発揮したが、他の事業が大きく期待を裏切って効果を発揮していないために結果的に指標の目標を達成できていないなど、真の要因を見極めることも重要であり、こうした考察も加えて総合所見として整理することも有益である。
- ・また、事業が効果を発揮できていない原因が、単なる事業の遅延等だけでなく、予見不可能な外的要因も関連することも考えられることから、要因の分類を行うことも必要である。
- ・そのような分析を通じて得た知見の積み重ねが、今後のまちづくりを行う上で貴重な財産となる。
- ・なお、数値目標を達成できていない指標については、効果を発揮することができていない事業内容や総合所見等を参考にして、改善の方針を記述する必要がある。

【記入例】 添付様式 5-③ 数値目標を達成できていない指標にかかる効果発現要因の整理

添付様式5-③ 数値目標を達成できていない指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標5		
指標名		観光入込客数			商業販売額		
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	要因の分類	指標改善への貢献度	総合所見	要因の分類
		基幹事業	都市計画道路〇〇線改良事業 都市計画道路△△線改良事業 市道××線〇〇交差点改良事業 ●●地下道自由通路整備事業 □□土地区画整理事業	— —b —b —b —	「歴史、風土、水ネットワーク事業」の遅れが、ハード事業との連携を遅らせ、観光客の伸びにマイナスの影響を与えた可能性が大きい。	I	—a —b —b —c —
提案事業	歴史、風土、水ネットワーク事業 〇駅橋上駅舎改善事業 □□地区景観形成ワークショップ	—a —c —	ただし、〇駅の改築と■■の改修工事は観光客増に大きく貢献した。	I	—b —c —	ただし、〇駅駅舎改善事業と●●地下道自由通路整備事業が買い物客の増加させた。	III
関連事業	□□土地区画整理事業 ■■館改修工事 地区計画	— —c —			— —c —		
改善の方針 (記入は必須)		・ハード事業とソフト施策の連携策の再検討 ・サイン整備計画の見直し ・観光客の動線の再検討			・道路ネットワークの再検討 ・商業活性化計画の策定		

- ① 指標名……………添付様式3-①において数値目標を達成できていないと判断される指標名（達成度が△もしくは×で、かつ、達成見込み「なし」とした指標）を記入する。
  - ② 事業名・箇所名……………都市再生整備計画に記載したすべての事業名および事業を実施した箇所名を具体的に記入する。
  - ③ 目標未達成への影響度…事前評価時に行った評価と同様の要領で指標の目標の達成と事業との関連性を評価するが、以下の基準により、指標の目標を達成できていないことに対して、事業が効果を発揮できていない影響度を評価する。
- | 評価の基準                                |  | 目標未達成への影響度 |
|--------------------------------------|--|------------|
| 事業が効果を発揮できず、指標の目標を達成できていない直接的な原因となった |  | — a        |
| 事業が効果を発揮できず、指標の目標を達成できていない間接的な原因となった |  | — b        |
| 指標の目標を達成できていない原因ではない                 |  | c          |
| 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない   |  | —          |
- ④ 総合所見……………指標の目標が達成できていない主な要因を、実施した（あるいは計画どおりに実施できなかった）事業や実施過程との関連性を踏まえ、事業名等を挙げながら具体的に記入する。
  - ⑤ 要因の分類……………総合所見で整理した要因について、それが内的な要因か・外的な要因か／予見可能であったか・不可能であったか、について分析し、分類I～IVのうちの該当するものを記入する。（具体的な例について、p24 参考3を参照）

達成できなかった要因の整理	
判定基準	
分類I	内的な要因で、予見が可能な要因のため
分類II	外的な要因で、予見が可能な要因のため
分類III	外的な要因で、予見が不可能な要因のため
分類IV	内的な要因で、予見が不可能な要因のため

- ⑥ 改善の方針……………交付期間が終了した後も、目標の達成を目指し行うべき改善の方針を必ず記入する。（改善の方針の立て方について、p25 参考4を参照）